

# みんなの環境

## 第3号

2006年9月15日 編集・発行 あつぎ環境市民の会

[http://www.geocities.jp/atsugi\\_kankyo/](http://www.geocities.jp/atsugi_kankyo/)

## 8月の環境ニュース

### 「地球温暖化」を言い換えるとしたら

「地球温暖化」という言葉にはやさしい響きがあるので、少しも危機感がわからないという人がいる。誰が言い出したのだろうか？英語では Climate change 直訳では「気候変動」だ。

海水は蒸発して大気中の水蒸気となり雲をつくり、雨や雪となる。海水の温度が高ければ蒸発量は増える。つまり、いわゆる「地球温暖化」が進めば雨も多くなる訳だ。逆に雨が多くなれば「地球温暖化」が進んだということになる。これらは全地球の状況を総合してみたとき言えることで、日本だけの局地的な現象から拙速に結論を出すべきではない。それにしても、局地的なこととはいえ、今まで無かったようなことが起きているとなると……………何らかの関係があるのではないかと疑ってみてもいいかも知れない。

「7月の降水量、各地で記録更新 気象庁発表」(8/1 毎日)「降水量2倍、日照半分／栃木」(8/3 朝日・栃木版)「北朝鮮の水害：死者行方不明者2万人超すとの情報も」(8/5 毎日)「エチオピア東部で堤防決壊191人死亡」(8/7 日経)「インド各地で洪水、死者200人超す」(8/10 産経)

7月の日本は九州・山陰・長野で大雨被害が出て「平成18年7月豪雨」と命名された。多い所では平年の3倍もの雨量があったとのことだ。

北朝鮮の被害については、大雨だけではなくインフラ整備の遅れが被害を拡大していると思われるが報道の通りとすれば大変なことだ。

エチオピアの東部は乾燥地帯で、むかし飛行機から見た風景が、行けども行けども赤茶色の地面ばかりであったことを思い出す。雨が降ればひとたまりもないことだろう。

普段と違う気候になれば、そこに暮らす人々の生活にも大きな影響がでる。

「大雨被害：農林水産業、1千億円超——6～7月」(8/23 毎日)「レタスが平年より64%高、大雨の影響で野菜高騰」(8/7 読売)、極端に気候が変われば作れない作物だって出てくるだろう。

ここまで来て思ったことは、今まで「地球温暖化」と言われた現象に対する適切な言葉は「気候暴走」がふさわしいのではないかと言うこと。みなさんはどう思われますか？

(KADO)

この機関紙にみなさんの環境への思いや情報を載せましょう。原稿は随時受け付けています

## =無知でいられない私たち=

### 食品添加物について勉強会をしました

7月29日付けの【週刊現代】に=添加物てんこ盛り食品、ミックスサンドだけで80種！=の警告の記事がでていて、びっくりされた方も多いのではないのでしょうか。

8月25日、あつぎ環境市民の会・エコママ部の7名が集まってこの週刊誌の記事の回し読みや、今ベストセラーになっている話題の本、阿部司著【食品の裏側】知れば怖くて食べられない！を参考にしたり、教育テレビで放映されたビデオを使って“たばこの害の実態”や、インターネットで行政が発信している“PRTRの情報”を見て、家族を守るために、「無知ではいられないね！」と話しながら勉強会をしました。本の著者によりますと、日本人が摂取する添加物は年間4kg以上で、1食の弁当に小さじ1杯くらいの添加物が入っていると思って良いそうです。

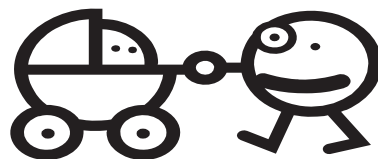
その中には酸性が強いため、コンクリートを溶かすほどの強烈な添加物もあると述べています。練り製品、漬け物、スナック菓子、ハンバーグ、ジュース、インスタントラーメンと、あらゆるものに添加物が利用されていますが、このように大衆誌も「知れば怖くて食べられない！」と警告を出してくれることはありがたい事だと思います。

10年以上も前ですが、弁当食品会社に勤めた理系を卒業した知人の友人が、添加物（薬品）がドラム缶に入っていて「恐ろしくてコンビニの弁当を食べる気がしなくなった」という話を思い出しました。また、東京農大・小泉武夫先生が賞味期限切れの弁当の残飯がもったいないと九州で豚の餌にリサイクルを実践したところ、生まれた子豚はほとんどが奇形だったという怖い話を聞いたりした。

この本を読んでいると、一番働き盛りで日本の経済を支えている勝ち組？の若もの達が、残業で疲れて帰ってきて、夜遅くコンビニで添加物てんこ盛り弁当を買って個食を強いられているのが現実ではないかと思うと、ほんとうに心配になってしまいます。経済優先の豊かさって何だろう？と考えさせられる一冊でした。国でも「化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）」が平成11年7月に制定され、神奈川県でも環境科学センターなどから化学物質などの環境情報が発信されています。

いま、溢れる情報の中から、私たち市民は家族の健康を守るため、正確な情報を学ぶ努力が必要です。政治家の方々には、ヨーロッパ諸国と同じように「安全と確認出来るまで市場に出すのは止める法律を定めて欲しい」と思います。また「未来の子ども達も含めて、人々の命を犠牲にして利益を優先することのない業界システムを作って欲しい」と、声をだして行かなければならないと話し合いました。

(狩野光子)



この機関紙にみなさんの環境への思いや情報を載せましょう。原稿は随時受け付けています

## 汗にまみれて～ ラベンダーの手入れ

### 「草の香りの会」とともに参加

住みたくない町にワースト入りしてしまった厚木。美しい街をみんなの手で、環境美化を市民も片隅から参加したいと、「草の香りの会」では東京農業大学の宮田教室に共催をお願いしました。8月4日9時30分に厚木市文化会館に集合、宮田教室のみなさんからラベンダーの手入れと摘み方を教わり、キラキラした太陽輝く街路のラベンダーの植え込みに立ち向かいました。当会4年目のイベントです。“広報あつぎ”で募集した参加者35名と農大生40名、あつぎ環境市民の会からも数名が参加、汗にまみれた作業でした。

刈り取ったラベンダーを使って、文化会館4Fで香りを楽しむクラフトづくりの講習も体験しました。学生さんと一緒に作業をして若い人の熱気に感動し、未来に明るさを見たひとときでもありました。

宮田先生は農学部バイオセラピー学科・人間植物関係学研究室の先生で6年前から文化会館付近に植栽されたラベンダーの剪定・除草を継続され、環境福祉にも貢献されています。



(中倉マキ子)

## 虫の声に秋の気配を感じる 荻野運動公園で、なく虫をきく会

8月27日(日) 18:30から21:00まで厚木市荻野運動公園で開かれた。

去年より少し早かったせいか、アオマツムシが少なく、その分、他の虫の声がたくさん聞かれてよかった。

虫の声の他、夜に活動する虫や植物のようすもいろいろ見られ、身近にありながら闇に紛れて見過ごしている自然の姿が楽めた。参加者5名



上： カラスウリの花



右： クツワムシ

## ソーラークッカーを作ってみよう

9月10日 パートナーシップセンター



太陽の光でお料理できるってほんとかな？

前日までの天気とはうってかわって太陽の日差しキラキラ、ソーラークッカー日和でした。

ボール紙を切り抜いて作るキットに「これで料理ができるのかな」と半信半疑で取り組んでいた参加者のみなさん。最後はできた作品とそれで作ったゆで卵をおみやげにニコニコして帰っていきました。

また、同時に炊いたご飯のおにぎり、焼き芋、プリンなども大好評でした。

～イベントおしらせ～

自然再発見 vol. 5

# 二の足林道 観察会

ご案内 長岡 恂 (厚木植物会)

期 日：平成18年10月7日(土) 雨天中止

募集人数：先着15名

秋が深くなります。広沢寺から不動尻まで広い林道を歩きます。ホトトギス、セキヤノアキチョウジ、ノギクの類など野の花が見られます。空気の澄んだ厚木の秘境を満喫します。

集合場所： 広沢寺温泉 駐車場 10時

バス案内： 厚木バスセンター⑨ 9時20分発 上谷戸ゆき

広沢寺温泉入口下車(350円) 徒歩15分

持ち物：お弁当、飲み物、雨具、筆記具 など

問い合わせ：長岡 TEL 046-247-8958 090-7009-5175

この機関紙にみなさんの環境への思いや情報を載せましょう。原稿は随時受け付けています